

## 内外交差点

## 共同化・協業化と連携促進団体

### 交通空白解消に向けたモビリティ・パートナーシップとタクシーの役割

日高 洋祐氏 (MaaS Tech Japan代表) 第11/12回

こんにちは、MaaS Tech Japanの日高です。今回は、先日示された国土交通省交通政策審議会地域公共交通部会の議論を踏まえ、「交通空白解消」に向けて国が打ち出した共同化・協業化、そして連携促進団体の必要性について、タクシー業界の視点から考えてみたいと思います。

人口減少や高齢化、運転免許返納の進展、鉄道・バスの減便や撤退などにより、地域の移動環境は年々厳しさを増しています。これまでのように、各交通事業者がそれぞれの立場でサービスを維持するだけでは、地域の移動を支えきれない局面に入っていることは、多くの事業者が実感しているのではないのでしょうか。

こうした状況を背景に、地域公共交通部会では「交通空白解消」を明確な政策課題として位置づけ、その解決手段として「共同化・協業化」「連携を促進する新たな仕組み」の必要性が示されました。

#### 共同化・協業化が示す方向性

部会資料で強調されているのが、地域に存在する輸送資源を最大限活用するための共同化・協業化です。ここでいう輸送資源とは、鉄道やバス、タクシーだけでなく、福祉送迎やスクールバス、自治体が保有する車両なども含まれます。

これまで日本の地域交通は、制度や所管の違いによって縦割りで運用されることが多く、結果として「空いている車がある一方で、移動できない人がいる」という非効率が生じてきました。部会で示された方向性は、こうした構造そのものを見直し、地域全体で輸送資源を組み合わせるという発想への転換です。例えば、福祉送迎や通学輸送とデマンド交通を組み合わせることで、昼間の稼働率向上や空走時間の削減につながる可能性があります。地域全体で需要を束ねることができれば、結果として事業の安定化にも寄与します。

#### 連携促進団体という新たなプレイヤー

今回の部会で特に注目すべき点が、「連携促進団体（仮称）」の必要性が明示されたことです。地域公共交通計画の策定や実行にあたり、多くの自治体では人手やノウハウが不足しており、関係者の調整も大きな負担となっています。

そこで、自治体だけに任せるのではなく、外部の専門的な立場から関係者の連携を支援する団体を制度的に位置づけ、計画の策定や提案にも関与できるようにする、という考え方が示さ

れました。

これはタクシー業界にとって大きな意味を持ちます。従来、地域公共交通計画は自治体主導で進められることが多

く、事業者は「意見を求められる側」とどまりがちでした。しかし、連携促進団体を通じて計画段階から関与できれば、現場の実態を踏まえた現実的な施策を提案することが可能になります。

タクシー事業者は、地域住民の移動実態を最もよく知る存在です。その知見を制度的に活かす道が開かれつつあると言えます。

#### 公共ライドシェアと実施主体の拡大

部会ではあわせて、公共ライドシェアの実施主体の拡大についても議論されています。交通事業者だけでなく、市町村や広域連合なども実施主体となり得る仕組みを検討することで、交通空白地域でも柔軟な移動手段を確保しようという考え方です。この点でも、タクシー事業者の役割は重要です。公共ライドシェアは、既存事業者が撤退した地域での代替手段として位置づけられることが多い一方、実際の運行ノウハウや安全管理はタクシー業界が長年培ってきた分野です。制度の枠組み次第では、タクシー事業者が運行や管理の中核を担う可能性も十分にあります。

#### データは協業を進めるための共通言語

共同化・協業化を進めるうえで欠かせないのが、モビリティデータの活用です。部会では、自治体が交通事業者にデータ提供を求めやすくする環境整備も重要だと整理されています。

需要の時間帯やエリア、稼働率、空車時間といったデータを可視化し、自治体と事業者が同じ数字を見ながら議論することで、感覚論ではない合意形成が可能になります。データは、協業を進めるための共通言語であり、連携促進団体がその橋渡し役を担うことも期待されます。

#### タクシー業界にとっての意味

今回示された方向性は、タクシー業界にとって「守り」ではなく「攻め」の機会でもあります。共同化・協業化による稼働率の改善、計画策定段階からの関与、多様な主体との連携を通じて、タクシーは地域交通の中核的存在として再定義されつつあります。交通空白解消は、もはや一つの事業者だけで解決できる課題ではありません。だからこそ、タクシー事業者が連携の当事者として地域に関わり、自治体や他の交通モードとともに移動を設計していくことが、これからの時代に求められています。

